



都知事に小池氏

与党分裂 知名度で浸透 女性初、増田・鳥越氏ら破る

無新①
小池百合子 64
元防衛相(首相補佐官・環境相) カイロ大

当選確実の報道を受け、支持者らに囲まれて万歳する小池百合子氏—31日午後8時14分、東京都豊島区
(松本健吾撮影)

舛添要一前都知事の辞職に伴う東京都知事選は31日、投票票され、元防衛相の小池百合子氏(64)が、元総務相の増田寛也氏(64)＝自民、公明、日こ推薦、ジャーナリストの鳥越俊太郎氏(76)＝民進、共産、社民、生活推薦＝らを破って初当選を確実にした。女性都知事の誕生は初

めて。自民党は候補者擁立が難航し、小池氏と増田氏の間で17年ぶりの分裂選挙となっていた。同党都連が擁立した増田氏陣営は徹底した組織選挙を挑んだが、「知名度」を背景に無党派層への浸透を続けた小池氏に及ばなかった。

午後6時現在の投票率は36・48%。前回(平成26年)を4・67%上回った。政党の支援を受けない小池氏は同党都連との対決姿勢を鮮明にし、都議会の冒頭解散をはじめとした「都民のための東京大改革」を訴えて、支持を集めた。

2020年東京五輪・パラリンピックについては、「利権追及チーム」をつくり、膨らむ経費の「透明化」を進めるとし、知事給与半減も公約に掲げた。ただ、都議会の半数近くを占める自民都議との対立が続けば、難しい都政運営を迫られることになりそうだ。

増田氏は自公両党の組織的な支援を受け、岩手県知事の経験など「行政手腕」を強調したが、無党派層への浸透が図れなかった。野党統一候補の鳥越氏は「原発ゼロ」「改憲阻止」などを訴えたが、明確な公約が見えず徐々に失速した。

小池氏は昭和27年7月15日、兵庫県芦屋市生まれ。関西学院大を中退し、エジプトのカイロ大を卒業。テレビ東京の番組キヤスターを経て平成4年の参院選で初当選、翌年から衆院議員。15年9月に就任した環境相時代には、クールビズを導入。19年7月には女性初の防衛相に就任した。

